

再評価結果（令和6年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課
担当課長名：高松 諭

事業名 一般国道15号 蒲田駅周辺整備 <small>かまたえきしゅうへんせいび</small>	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 <small>関東地方整備局</small>													
起終点 自：東京都大田区南蒲田1丁目 <small>おおたくなみなみかまたいつちようめ</small> 至：東京都大田区東六郷1丁目 <small>おおたくひがしろくごういつちようめ</small>	延長 0.98km														
事業概要 本事業は、国道15号と環状8号線が交差する南蒲田交差点を立体化し、並行して進められている京浜急行電鉄の連続立体交差事業による踏切の除却と合わせて蒲田地区の渋滞緩和を図るとともに、沿道環境の改善、京急蒲田駅東口駅前広場の整備と連携して公共交通機関の利便性向上・利用促進及び空港アクセス機能の強化等を目的とする事業である。															
H13年度事業化	S20年度都市計画決定 (H13年度都市計画変更)	H13年度用地着手													
H16年度工事着手															
全体事業費	約311億円	事業進捗率 約98% (令和5年3月末時点)													
	供用済延長	0.5km													
計画交通量 35,400~48,300台/日															
費用対効果分析結果	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">B/C</td> <td style="width: 20%;">(事業全体) 1.3</td> <td style="width: 20%;">総費用</td> <td style="width: 20%;">(残事業)/(事業全体) -/549億円</td> <td style="width: 20%;">総便益</td> <td style="width: 20%;">(残事業)/(事業全体) -/709億円</td> <td rowspan="3" style="width: 20%;">基準年 令和5年</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(残事業) -</td> <td colspan="2" style="border: 1px solid black;"> 事業費：-/539億円 維持管理費：-/11億円 </td> <td colspan="2" style="border: 1px solid black;"> 走行時間短縮便益：-/633億円 走行経費減少便益：-/64億円 交通事故減少便益：-/12億円 </td> </tr> </table>	B/C	(事業全体) 1.3	総費用	(残事業)/(事業全体) -/549億円	総便益	(残事業)/(事業全体) -/709億円	基準年 令和5年		(残事業) -	事業費：-/539億円 維持管理費：-/11億円		走行時間短縮便益：-/633億円 走行経費減少便益：-/64億円 交通事故減少便益：-/12億円		
B/C	(事業全体) 1.3	総費用	(残事業)/(事業全体) -/549億円	総便益	(残事業)/(事業全体) -/709億円	基準年 令和5年									
	(残事業) -	事業費：-/539億円 維持管理費：-/11億円		走行時間短縮便益：-/633億円 走行経費減少便益：-/64億円 交通事故減少便益：-/12億円											
感度分析の結果 【事業全体】交通量：B/C=1.3~1.3（交通量 ±10%）【残事業】交通量：B/C= - 事業費：B/C=1.3~1.3（事業費 ±10%） 事業費：B/C= - 事業期間：B/C=1.3~1.3（事業期間±20%） 事業期間：B/C= -															
事業の効果等 ① 交通渋滞の緩和 ・国道15号の通過交通が立体部に転換し、環状8号線と交差する南蒲田交差点の混雑が緩和。 ② 安全性向上 ・死傷事故発生件数は、立体開通前後で約6割、事故類型別では追突事故が約6割減少。															
関係する地方公共団体等の意見 ・東京都知事の意見： 本事業は、混雑していた京急蒲田駅周辺の交通渋滞の緩和に大きく寄与している。 また、沿道環境の改善や駅周辺のまちづくりとの連携による利便性向上の観点から、事業の必要性は極めて高い。 このため、必要な財源を確保し、早期完成に向け、事業を推進されたい。 さらに、事業実施にあたっては、コスト縮減を図るなど、より効率的な事業推進に努めること。															
事業評価監視委員会の意見 事業の継続を了承する。															
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 社会情勢について大きな変化は見られない。															
事業の進捗状況、残事業の内容等 当該事業の用地進捗率は100%（平成25年度取得完了）。 地下立体部（延長約0.5km）は平成24年12月に4車線開通済み。 側道部との擦り付け工事等を実施。															

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

残る側道部の擦り付け工事等について、関係機関協議を踏まえた施工に一定程度の時間を要しているところ。

施設の構造や工法の変更等

引き続きコスト縮減に努めながら事業を推進していく。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の事業の効果及び進捗状況、関係する地方公共団体等の意見、事業評価監視委員会による審議を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。